

厚生センターだより



栃木市生活環境部 人権・男女共同参画課 厚生センター係

人権啓発コーナー



里の秋

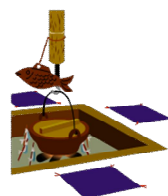


1 静かな 静かな 里の秋
ああ 母さんと ただ二人

おせどに 木の実の 落ちる夜は
栗の実 煮てます いろりばた

2 明るい 明るい 星の空
ああ 父さんの あの笑顔

鳴き鳴き 夜鴉の 渡る夜は
栗の実 食べては 思い出す



※おせど（お背戸）：家の裏庭

秋が深まると、ふと口ずさみたくなる歌に「里の秋」があります。「日本の歌百選」にも選ばれている有名な童謡です。ご存じでしょうか？

暖かいいろりばたで母親と一緒に栗を食べながら、亡き父親との楽しい思い出を懐かしむ様子が目に浮かびます。ほのぼのとしたぬくもり中にも、寂しい想いが見え隠れする歌がしんみりと心の琴線に触れます。

最近、この歌には3番まであることを知りました。

3 さよなら さよなら やしの島
ああ 父さんよ ご無事でと

お船に揺られて 帰られる
今夜も 母さんと祈ります



「さよなら」「お船に揺られて帰られる」「父さんよご無事で」3番の歌詞は、1・2番の歌詞内容と大きく変わります。

この「里の秋」の歌は、終戦直後の昭和20年12月に、外地から引き上げ船に乗って帰ってくる復員兵を歓迎するために作られ、ラジオで発表された歌なのだそうです。ですから3番の歌詞では、南方の戦地に行った父親の無事を祈りながら、母と子で帰りを待っていることが歌われています。

しみじみとした日本の秋の愛唱歌・抒情歌として親しまれてきた歌でしたが、歌ができた背景を知ると、なんとなく切なさを感じられます。

戦争は、人々のすべての権利を制約されたり、否定されたりします。生存する権利も脅かされます。

たくさんの人を戦地に送り出す歌も、戦地から帰ってくる復員兵を励ます歌も必要ないそんな平和な世の中になってほしいと祈ります。



厚生センターでは、生活上の各種相談をお受けしています。

お気軽にご相談ください。

（人権・生活・健康・年金に関することなどの相談に対応しています）

相談受付（電話でのご相談も可能） ☎0282（24）2444

日時：月～金曜日（土・日・祝日は休み）

午前8時30分～午後5時15分

巡回相談 場所：新栃木コミュニティ会館

日時：11月11日（月）午前10時～午前11時

